

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2017年度（前期）指定公募

「市民の集い開催への助成」

完了報告書

テーマ「看取りとは、患者さんの残された人生に向き合うこと」

申請者 西村 直之

所属機関 株式会社メルフィス 訪問看護ステーションブロッサム

提出年月日 平成30年9月26日

地域交流イベント

医療 & 介護カフェ Adachi

看取りとは、患者さんの残された人生に向き合うこと
～学び、つながり、笑顔で生ききる～

開催概要

- ・ 日時 平成30年8月26日（日） 14：00～16：20
- ・ 会場 足立区生涯学習センター 講堂
- ・ 参加者 医療介護関連事業者及び地域住民
- ・ 参加人数 全128名（約4割が地域住民）
- ・ 主催 医療&介護カフェ**Adachi**実行委員会
- ・ 後援 医療法人社団 悠翔会
- ・ 助成 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

地域コミュニティ 医療&介護カフェADACHIの沿革

2014年7月、株式会社メルフィス（訪問看護ステーションブロッサム 足立区）の執行役員西村直之と看護師古川麻美は、医療連携先である医療法人社団悠翔会 理事長 診療部長佐々木 淳氏と共同で発足。その目的は「地域事業者の顔の見える関係を深めよう」であった。本年までの約4年、不定期開催ではあるが、全20回を開催。（内2回は勇美記念財団助成金対象開催）地域の若者も高齢者も住みやすい地域にしたいと、佐々木淳氏が全20回講演。「認知症の方々との関わり方」「在宅で暮らす高齢者やご家族の関わり方」「在宅お看取り」等をテーマとしてきた。第7回では、足立区長近藤やよい氏、介護保険課長、衆議院議員、都議会議員、区議会議員も参加。22名からスタートしたコミュニティも今では、100名以上の参加となり、地域の主体である住民の参加も4割となる。

【司会／進行】 フリーアナウンサー 元日本テレビアナウンサー 町 亞聖

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。

アナウンサーとしてスポーツ、お天気情報番組、クラシック、ニュースなど様々な番組を担当。その後、報道局に活動の場を移し記者、キャスターとして活躍。

主に厚生労働省担当記者としてがん医療、薬害肝炎、医療事故、不妊治療、臓器移植、難病問題や年金などの社会保障問題など様々なテーマを取材。

また震災報道、事故事件の現場、裁判中継（オウム真理教麻原裁判）、皇室関連（愛子様誕生など）など数々の歴史的な出来事取材に携わる。

脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そしてその母と父をがんで亡くした経験から医療と介護を生涯のテーマに取材を続ける。

しゃべりのプロとしての意識を持ち取材もできる「伝え手」として経験を重ね肩書きにとらわれず「自分で取材し自分で作って自分の声で伝える」アンカーマンを目指す。活動の場を広げるため2011年6月にフリーへ転身。



【講演】 14:10～15:15
胃瘻や点滴はもういらぬ
最期を決める覚悟とタイミング

医療法人社団 悠翔会
理事長 診療部長

佐々木 淳

1998年筑波大学医学専門学群卒業、三井記念病院内科入局。
2003年東京大学医学系研究科博士課程入学。医療法人社団哲仁
会井口病院副院長等を歴任し、2006年MRCビルクリニック開設。2008
年同クリニックを医療法社団法人悠翔会へ改名。現在は、1都3県に
12ヶ所の在宅診療専門のクリニックを運営。訪問診療の年間患
者数は約4,000名、在宅でのお看取りは年間約800名。日本唯一
の在宅診療専門診療所となる。



「胃瘻や点滴はもういらない 最期を決める覚悟とタイミング」①

※資料抜粋し記述

【ご自宅でもこのような医療行為ができます】

経管栄養、中心静脈栄養、微量輸液、尿道留置カテーテル、膀胱瘻、腎瘻
胸腹水ドレナージ、在宅酸素、気管切開管理、吸引療法、人工呼吸器
形成外科的処置、手術、関節内注射、神経ブロック、検体検査、心電図、超音波、
骨塩定量・・・

【麻薬管理】

輸血、抗癌剤投与、感染症などの急性期治療

「胃瘻や点滴はもういらない 最期を決める覚悟とタイミング」②

※資料抜粋し記述

【チームケア】

医師だけではなく、看護師、介護士、薬剤師、作業療法士、理学療法士、介護支援専門員、歯科衛生士、管理栄養士、医療事務、介護事務、その他の方で連携し在宅を支えます。

【最期はどのように】

本当は家にいたいのに、現在の日本では7割以上は自宅以外の「死」となっている現状

「胃瘻や点滴はもういらぬ 最期を決める覚悟とタイミング」③

※資料は抜粋し記述

【日本人はなぜ病院で死ぬのか？】

①死ぬまで治療をするから

「1分1秒でも長く生きてほしい」「治療をやめる決断ができない」

②自宅で介護ができないから

一人暮らしでもチームケアにより在宅での生活は可能。

「胃瘻や点滴はもういらぬ 最期を決める覚悟とタイミング」④

※資料は抜粋し記述

【点滴の意味】

点滴をしないことは緩和ケアである

苦痛の少ない最期のために点滴中止は倫理的に妥当

※日本では老年医学会の40%の医師が、点滴もせずに看取るのは「餓死」させることになる＝訴訟リスクがあると考えている。

「胃瘻や点滴はもういらぬ 最期を決める覚悟とタイミング」⑤

※資料抜粋し記述

【経管栄養（胃瘻）の意味】

経管栄養は終末期患者に不利益をもたらす

「終末期における経管栄養の効果」

- ・ 栄養障害を防止できる
- ・ 褥瘡予防できる
- ・ 誤嚥性肺炎を予防できる
- ・ QOLを改善できる
- ・ 機能状態や生命予後を改善する

※これらすべてについて科学的根拠がない。

「胃瘻や点滴はもういら
ない
最期を決める覚悟とタイミング」⑥

※資料抜粋し記述

【看取りとは・・・】

自宅で最期まで生活を続けること

納得して人生を生き切ること

いのちの記憶を家族に引き継ぐこと

【医療&介護カフェADACHI】 発起人／実行委員長

西村 直之

2014年7月、事業者同士の「顔の見える関係性作りをしよう」と医療&介護カフェAdachiをスタート。有志22名より、現在では100名を超える方々が賛同して頂くまで発展。不定期の開催ではありますが、全17回開催。今では事業者だけではなく、地域住民も参加していただける様になってきました。



【ディスカッション】 15:30～16:15

チームケアで在宅を支える

在宅でのお看とり経験のあるご家族と、医療介護関係者でディスカッションを行います。

- ・ 進行 フリーアナウンサー 町 亞聖
- ・ 医療法人社団 悠翔会 理事長 佐々木淳
- ・ 医療&介護カフェAdachi 発起人 西村直之
- ・ 在宅看取り経験家族 國分 操



まとめ

今回のフォーラムは、参加者128名に対し4割が地域住民となりました。足立区の高齢化率は23%となり、年々増加しております。若者と高齢者が明るく楽しく過ごせる足立区にするためには、事業者同士の連携及び何より地域住民の力が必要だと深く感じます。今までのトップダウンではなく、ボトムアップとして現場の声を声高らかにしていく事が日本国の高齢社会を守る一歩であると感じます。

2025年問題に向け、今、地域で何をすべきか？高齢者の住み慣れた地（自宅）で安心した生活を送る為には何をすべきか？など、この地域コミュニティ「医療&介護カフェAdachi」で議論し続けていきたいと思っております。

医療&介護カフェAdachi 発起人 西村直之